

卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）

大学全体

建学の精神「自由、愛、正義」の下、豊かな人間性を備え、現代的課題への対応能力、問題解決能力を有する者に次の学位を授与する。

1. 専門分野における学術の理論と応用を修得し、知的道徳的に円満な教養を有する者に対し学士の学位を授与する。
2. 専攻分野における研究能力又は高度の専門性を要する職業等に必要な能力を有する者に対し修士の学位を授与する。
3. 専攻分野における研究者・技術者・高度専門職業人として自立して研究活動を行うに必要な高度の研究能力、柔軟な応用能力及びその基礎となる豊かな学識を有する者に対し博士の学位を授与する。

工学部 学士（工学）

学士（工学）には、教育のモットー「創造と人間性」の下に培われた幅広い教養と応用能力を礎とし、「ものづくり」に必要なとされる基礎知識と応用技術を各専門分野で確実に修得し、変革の激しい国内外の技術革新にも十分適応できる、高度な専門技術者としての資質を求める。

1. 幅広い教養を有し、豊かな人間性を備え、かつ国際的にも通じる技術者であるためには、人文・社会科学や語学等を通じて基礎知識を吸収し、それ等を自ら発展して、問題を探求・解決する姿勢を身につける必要がある。
2. 「ものづくり」の原点は、何事にも深い興味を示し、問題に対し自ら挑戦し、実践することであり、実験・実習等を含む各専門教育の中で、その理論と応用技術を広く深く習得し、高い技能と堅実な実践力を身につける必要がある。
3. 専門的職業人として活躍するためには、強い使命感と責任感、更に正しい倫理観を持ち、自己を表現しつつ他との協働を尊重するなど、社会の一員として自らを的確に打ち出す姿勢を身につける必要がある。

<電気学科>

電気・電子情報工学は、様々な産業分野の発展を支えている現代社会に不可欠の技術である。電気学科では、学部のディプロマ・ポリシーに基づき、専門分野の知識と技能を習得し、それらを活かすことができる以下の資質を身につけた者に学位を授与する。

1. 電気・電子情報技術者に必要な基礎学力
2. 電気・電子情報工学の専門基礎知識
3. エネルギー・電力、情報通信、計測制御、物性・材料の何れかの分野の専門的な

知識

4. 外国語によるコミュニケーション基礎力
5. 豊かな人間性を育む倫理観と教養
6. グローバル社会におけるキャリア意識

<応用化学科>

応用化学は、新しい物質を作り出すことで産業を支え、環境・エネルギー・資源問題や安全で安心な生活にも貢献している。応用化学科では、学部のディプロマ・ポリシーに基づき、以下の資質を身につけた者に学位を授与する。

1. 応用化学の専門基礎を理解する際に必要な自然科学系基礎学力・知識
2. 応用化学の幅広い専門基礎知識
3. 材料物質や生命現象を原子分子レベルで理解し、応用化学の理論や技術を学ぶための専門的な知識
4. 化学技術者として活躍するために不可欠なリーダーシップと協調性、提案する力と解決する力の修得
5. 幅広い教養と豊かな人間性および正しい倫理観に基づくキャリア意識
6. グローバル化した社会に臨む科学技術者に必要な基礎的語学力

<機械学科>

機械工学は、現代社会を支える幅広い技術にかかわる工学の基礎分野である。特に本学が位置する中部圏は自動車・航空機・工作機械分野をはじめとする、わが国の「ものづくり」の中核をなしている。機械学科では、学部のディプロマ・ポリシーに基づき、以下のような高度な機械技術者としての資質を身につけた者に学位を授与する。

1. 機械工学の基礎となる専門科目の知識と素養
2. 機械技術に関する高度な専門科目の知識と素養
3. 機械工学分野における実践的な技術力および応用力
4. 未来志向の先端分野に関する科学・技術
5. 社会に貢献する機械技術者としての将来像、倫理観
6. 機械工学の専門分野を学修するための自然科学の知識と素養
7. 国際的に活躍できる幅広い教養と豊かな人間性

<土木工学科>

21世紀に入り、我が国は社会基盤整備を目標とした物造り重視の時代から、人間と自然との関わりを重視し、環境保全や資源リサイクルを志向する循環型社会の時代へと移行しつつある。本学科では、これら社会のニーズを常に意識し、様々な視点から問題

解決に立ち向かうことができる、自律の心を備えた中堅実務技術者の育成を教育目標としている。すなわち、官公庁・民間を問わず、企画・設計・施工に関わる各種実務の遂行において中心的役割を果たす技術者の育成を目指す。

中堅実務技術者の育成を教育目標の核とし、また本学の建学の精神である「自由・愛・正義」を基調として、本学科の教育プログラムでは以下の3本の柱を教育理念の中心に据える。

1. 人格の向上：人類の幸福・福祉を日々追求し、技術と自然との関わりに深い関心を持ち、愛と正義の下に技術者としての社会的な貢献や責任を志向する能力を養う。
2. 専門知識の養成：防災、環境・生態系、造形や情報技術等のソフト面の知識を含め、土木工学に関する幅広い専門知識を養成し、かつ実践的な応用能力を養う。
3. 応用能力の育成：自由な発想と創造力の下で真理を探究し、論理的思考に基づいて自己の主張を提示し、他の技術者と連携を図りながら問題を解決する能力を養う。

<建築学科>

建築学は、人類創生の頃から続いている技術であり、芸術に関わる学術分野である。「形態や空間の美しさ」と同時に、「利便性や快適性」、「安全性や耐久性」が要求され、地震・台風その他の外力に対しても安全で、都市や地域において持続可能でかつ実用的なものであることが望まれる。建築学科では、学部のディプロマ・ポリシーに基づき、以下の資質を身につけた者に学位を授与する。

1. 基礎的な知識と素養、何事にも主体的に学ぶ姿勢
2. 建築に関する専門的な理論と総合的で高い応用技術
3. 建築技術者としての強い使命感と責任感、正しい倫理観
4. 自己の表現力、他との協働を尊重できるコミュニケーション能力
5. 人と地球環境にやさしい社会づくりのための先端技術と実践力

経営学部 学士（経営学）

<経営学科>

建学の精神「自由、愛、正義」の下、教育のモットー「創造と人間性」を発揮する幅広い教養を持ち、グローバル対応を迫られる地域産業や国際社会に貢献する人材を育成することを目指し、以下に示した基準を満たす学生に学位を授与する。

1. 社会に対して豊かな幅広い教養と高い倫理観を身につけている。
2. 日本人だけでなく外国人にも表現力とコミュニケーション力を発揮し、協働できる。

3. 論理的に状況を分析し、問題解決へ向けて主体的に対応することができる。
4. 経営者育成、ものづくり、経理・会計、企画・営業サービス、IT のいずれかを得意分野とし、企業をはじめとする組織を経営する専門知識を備えている。

情報科学部 学士（情報科学）

<情報科学科>

学士（情報科学）には、教育のモットーである「創造と人間性」を発揮する幅広い教養と、情報科学の技術者あるいはメディア・クリエイター、指導者として長年に渡って産業と社会の発展に貢献できるように、情報科学の基礎知識と実践的技術、さらには豊かな人間性も兼ね備えることを求める。

1. 総合教育科目の多面的履修を通じて、基礎学力を養い豊かな人間性と専門分野を超えて問題を探求する姿勢を身につけること。
2. 共通教育科目の履修を通じて、情報科学分野に共通する基礎力と社会人として必要な人間的能力を養うこと。
3. 専門教育科目の履修を通じて、コンピュータシステム専攻においては、コンピュータシステムについての知識と技術を修得し、コンピュータシステムの開発において実践的な能力を発揮することができること。
4. 専門教育科目の履修を通じて、メディア情報専攻においては、種々のメディアを用いたコンテンツの開発手法についての知識と技能を修得し、コンテンツの開発において実践的な能力を発揮することができること。

工学研究科 修士（工学）

学則に定める期間在学し、所定の単位を修得して、修士論文の審査及び学力試験に合格すること。さらに、以下に掲げる素養を持つことを求める。

1. 産業界の第一線で活躍するには、高度な専門的技術に加えて、あらゆる問題に対応できる幅広い専門知識が必要となるため、自らの専攻分野にも強い関心と興味を持って積極的に取り組む姿勢が備わっていること。
2. 博士前期課程で培ってきた専門知識、研究成果等を社会に還元するための、コミュニケーション能力及びプレゼンテーション能力が十分備わっていること。
3. 基礎の理解力に根ざした応用力、問題解決能力が養われていること。さらに、諸問題の解決のために、協調性と高い倫理観をもって自ら行動することができること。

工学研究科 博士（工学）

学則に定める期間在学し、所定の単位を修得して、博士論文の審査及び学力試験に合格すること。さらに、以下に掲げる素養を持つことを求める。

1. 研究者、高度専門技術者として、問題発掘能力、解決能力を備え、自立して研究や技術開発ができること。
2. 国際性に深い関心を持ち、外国語によるコミュニケーション能力、プレゼンテーション能力を備えていること。

経営情報科学研究科 修士（経営情報科学）

学則に定める期間在学し、所定の単位を修得して、修士論文の審査及び学力試験に合格すること。さらに、以下に掲げる素養を持つことを求める。

1. 産業界のビジネス諸問題に対抗できる得る経営情報科学の高度な専門的学識を有し、論理的思考力と優れた問題解決ができ得る能力を有していること。さらには豊かな人間性も兼ね備えることを求める。
2. 博士前期課程で培ってきた専門知識、研究成果等を社会に還元するための、コミュニケーション能力やプレゼンテーション能力が十分備わっていること。
3. 基礎の理解力に根ざした応用力、問題解決能力が養われていること。さらに、諸問題の解決のために、協調性と高い倫理観をもって自ら行動することができること。

経営情報科学研究科 博士（経営情報科学）

学則に定める期間在学し、所定の単位を修得して、博士論文の審査及び学力試験に合格すること。さらに、以下に掲げる素養を持つことを求める。

1. 長期的視点に立ってビジネス社会の未来を進化・変革でき、学術発展に寄与し得ること。
2. 研究者、高度専門職業人として高度な研究能力と問題解決能力を有して自立して研究を発展指導できること。
3. 国際性に深い関心を持ち、外国語によるコミュニケーション能力、プレゼンテーション能力を備えていること。